

**十勝歯科
医師会
在宅
歯科診療**

**高齢者の死亡原因1位の肺炎
在宅歯科診療で予防を**

十勝歯科医師会(小林靖会長)では、2012年度から北海道の委託事業として「在宅歯科医療連携室整備事業」を実施しています。「在宅歯科連携室」を窓口に、在宅・福祉施設・病院で療養される方を訪問して、歯科診療や口腔ケア、口腔リハビリを行っています。この事業の推進には、関連多職種との連携が重要となります。今回、ケアマネジャー、在宅歯科連携室専任相談員(歯科衛生士)に在宅歯科診療の重要性について、十勝歯科医師会事業担当理事の増地裕幸さん(ますち 歯科診療室院長)が聞きしました。

**歯科診療は全身の
予防医療に重要**

●**増地理事**：在宅の要介護者の方の口のトラブルについて、ケアマネジャーの渡辺さんにお伺いします。
●**渡辺ケアマネ**：まず、身体機能の低下に伴い、口のケアが十分でなくなると虫歯や歯周病が現れてきます。それに伴い、十分食べることができずに痩せてしまい、歯肉が合わなくなり、そして軟らかい物ばかりを食べるようになってしまふことでかむ力が弱くなり、ますます身体機能が低下するといった悪循環が起こればやくなります。また、口の中が乾燥する人が多く、口や喉が渇く、舌の痛みや味覚の変化として症状を訴える方も多いです。
●**増地理事**：在宅歯科診療の希望は、どの程度ありますか？

●**渡辺ケアマネ**：利用者や家族の希望優先順位は、訪問介護や訪問看護に比べると低いのが現状です。歯医者は歯が痛くなったら行くところといったイメージが強く、歯周病予防や肺炎予防のために歯科診療を受けようと思う方は少ないと感じます。在宅にも寝たきりや胃に直接栄養や水分を注入(胃ろう)している方もいます。そういった方は肺炎になりやすく、口のケアは必須です。一部の神経難病や認知症の方にも、口から食べることが難しくなってくる人もいますので、早期に専門的なケアを受けていただく必要があります。

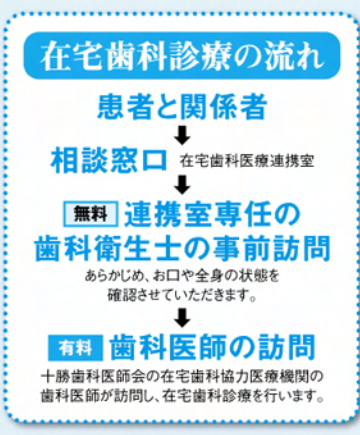
●**増地理事**：歯科医療が疾患を予防し、体の健康維持につながるという考え方を地域に広げていく必要があると感じています。食事や会話など口を動かすことは、脳の血流増加と関係します。口の疾患を治療し、口腔ケアをすることによ



■座談会参加者(写真右から)増地裕幸さん(十勝歯科医師会事業担当理事)・渡辺つづ江さん(ケアマネジャー、保健師)・鈴木友美さん(在宅歯科連携室専任相談員)・渡辺モ子さん(在宅歯科連携室専任相談員)

て、誤嚥(えん)性肺炎などの予防に効果が上がります。口腔ケアと同時に舌や舌唾液腺(唾液をつくる部分)などを刺激する口腔リハビリの実践も重要視しています。なぜなら、十分な唾液で潤いのある口腔状態は、体の病気の予防最前線と考えているからです。

●**増地理事**：地域の在宅・福祉施設、病院で療養される要介護の方のお口のトラ



●お申し込み・お問い合わせ
十勝歯科医師会 [在宅歯科医療連携室]
〒080-0807 帯広市東7条南9丁目15-3 ☎0155-25-2172
FAX0155-22-8024 http://www.octv.ne.jp/~tda118/
●受付時間(専門の相談員が対応します)
月～金曜 / 9時～17時
※来所してのご相談は、あらかじめ電話のご予約をお願いします。

ブルの際に、まず相談窓口となる十勝歯科医師会在宅歯科連携室の専任相談員(歯科衛生士)の活動について教えていただけますか？

●**渡辺相談員**：要介護の方、家族、介護職からの電話相談を受け、必要に応じて事前調査(無料)に訪問します。その方の状態を確認し、在宅歯科診療が必要と判断されたケースでは、協力歯科医師に情報を提供し、在宅歯科診療のコーディネートを行うのが仕事です。

●**増地理事**：どのような相談が寄せられますか？

●**鈴木相談員**：入れ歯が痛い・合わない、歯が痛いのみ込みが悪い、歯ぐきが痛い、腫れているなどが多いです。口腔の問題について十勝歯科医師会では、サポート体制が整備されています。困ったことや、疑問などがあれば、お気軽に電話相談いただければと思います。我慢して重症化する前に対応することが、全身の健康の維持にも有効となります。また別の視点からみると、例えば、入れ歯を使用せず上下のかみ合わせがしっかりとていないケースでは、かみ合わせができることで、立ち上がる、歩くといった動作の際に、体のふらつきを予防する効果もあります。また、かむための入れ歯という考えの他にも、舌の動きの低下によるのみ込み障害のケースでは、上顎への入れ歯を装着することによってのみ込みのときの舌の機能をサポートする働きもあります。今までの歯科医療に対してのイメージを変えていく啓発活動も私たちの仕事だと考えています。

●**増地理事**：今後、在宅歯科診療を進めていく上でキーパーソンとなる、要介護者・家族の支援職種のケアマネジャーと在宅歯科連携室の連携体制が重要です。口腔ケアや口腔機能の低下、乾燥に対しての口腔リハビリは、むせや肺炎の予防につながり、それは健やかな生活の向上につながります。また、口の情報を把握し、かかりつけ歯科医師を普及より持つこともお薦めです。地域で療養されている方、家族の方には、お気軽に十勝歯科医師会在宅歯科連携室をご利用いただきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。